

伊賀流自治の視点

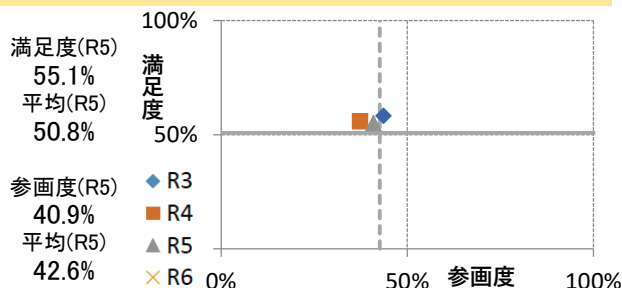
【主担当部局】

地域連携部

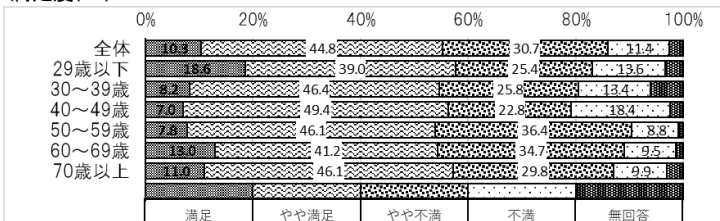
- ・住民自治協議会が自主自立した地域づくりを行うため、地域の課題解決や情勢の変化に迅速に対応したサポートを行います。
- ・市民公益活動団体等の、安定的、持続的な活動を支援します。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2023(R5)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	住民自治 住民自治協議会に対し、住民自治に関する研修会や勉強会を開催し、住民自治活動の活性化を図り活動への参画を促進するとともに、住民自治活動の拠点となる地区市民センターの指定管理者制度の導入をめざします。 また、持続可能な地域づくりに向けて、地域包括交付金やキラッと輝け！地域応援補助金などの財政支援を行うとともに、地域担当職員や市民活動支援センターでの相談体制を充実させることにより、住民自治活動を支援します。	○住民自治協議会推進経費 ・地域まちづくり計画の進行管理 ・地域包括交付金やキラッと輝け！地域応援補助金等による財政支援 ○自治振興経費 ・地区公民館建設費補助事業 ・コミュニティ助成事業 ○地区市民センター維持管理経費 ・地区市民センター運営管理 ・指定管理者制度導入支援 ○地区市民センター施設改修事業 ・第2期実行計画に基づく整備	成果指標	キラッと輝け！地域応援補助金 申請件数					
			成果指標の説明	令和元年度の申請件数を起算値として、団体からの補助金申請件数の累計値					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(件)	11	42	61	77		81
2	市民活動 市民活動支援センターにおいて、市民活動団体の活動内容などの情報を積極的に発信することで、市民活動に対する市民の関心を高め、自主的なまちづくり活動への参加を推進します。また、各種研修会の開催や市民活動支援員による相談体制の充実を図り、市民活動団体の活性化を促進します。 市民の自主的なまちづくり活動を支援し、個性的で魅力あふれる地域づくりを推進するため、地域活動支援事業を実施し、市民活動団体の継続的な活動をサポートします。	○ゆめぼりすセンター維持管理経費 ・ゆめぼりすセンター運営管理 ・市民活動支援センター運営管理 ○地域活動支援事業 ・地域活動支援事業補助事業 ・N-1グランプリ開催事業	成果指標	市民活動支援センター 利用件数					
			成果指標の説明	市民活動相談件数、情報交流スペース利用件数、印刷機利用件数の合計件数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(件)	1,307	950	1,257	1,305		1,372
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

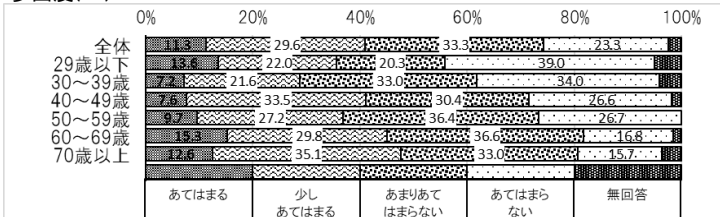
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R5)



参画度(R5)



傾向	・満足度、参加度ともに概ね平均値。
	・満足度は、どの年齢層も概ね同水準。
	・60歳以上の参画度が高い。

【CHECK②】			【事業の進捗】取り組み状況
効果検証			【ACTION】事務事業の改善案
1	効果が出ている点	地域担当職員を中心に、住民自治協議会としっかりコミュニケーションを取り、課題の共有化を図り、地域課題に応じた伴走支援を行っている。このことにより、キラッと輝け！地域応援補助金の活用など、課題解決に向けた新たな取組がなされている。 また、地区市民センターの指定管理者制度に関しては、課題の一つである労務・税務管理に対し、専門家による相談体制を構築することで指定管理者での運営が円滑に進められている。令和6年度、新たに1地域で導入することとなった。	計画通り進めている ○それぞれの地域が抱える課題に対して、具体的な解決策を地域とともに考え、実践につながるサポートを展開する。 【具体的な取り組み】 ・地域課題抽出のためのグループワーク等の実施 ・まちづくり計画の見直しに向けたサポート ・地区市民センターの指定管理者実務者勉強会の開催 ○若年層や女性をはじめ、あらゆる世代が地域活動に自分事として関心を持ち、防災活動をはじめとする地域の諸活動に参画していただけるよう、関係部署と連携を図りながら、地域力強化につながる支援を行う。 【具体的な取り組み】 ・防災倉庫の確認や、MCA無線機をはじめとした防災資器材の取り扱い訓練の実施
	課題	・住民自治活動について、これまで活動の中心となってきた人たちの高齢化や地域住民の減少による活力低下が危惧されている。 ・特に災害時などにおいては地域内での支え合い、互助・共助が機能する「地域力・地域防災力」の強化を図る必要がある。 ・地区市民センターの指定管理者制度に関して、年々導入する地域が増えてきているものの、全体の4割弱に留まっている。	
2	効果が出ている点	市民活動支援センターが実施する研修会において、社会ニーズに合わせたテーマとすることで、まだ市民活動に所属していない新たな層の参加につなげることができた。 また、N-1グランプリへの参加をきっかけとして、市内をはじめ定住自立圏域内での市民活動の交流が図られている。	計画通り進めている これまで市民活動に参加・参画の機会がなかった人材の掘り起こしを行うため、市民活動支援センターにおいてSNSによる情報発信機能の強化を図る。
	課題	人口減少をはじめとする社会情勢の変化に伴い、市民活動に意欲のある人材が減少している。また、新たな市民活動団体等の登録数も減少しており、地域活動支援事業補助金の活用件数も低調である。 そのため、市民活動に対する市民の関心を高め、市民活動に参加・参画の機会を作り出すことが求められる。	
3			
4			

伊賀流自治の視点

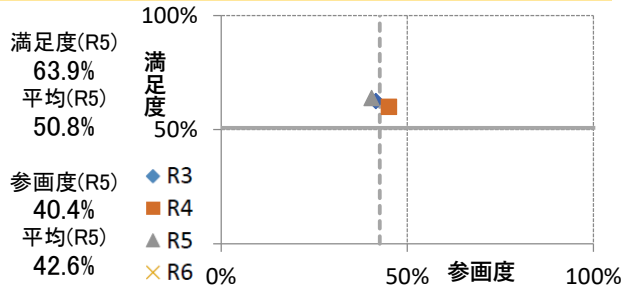
【主担当部局】

人権生活環境部

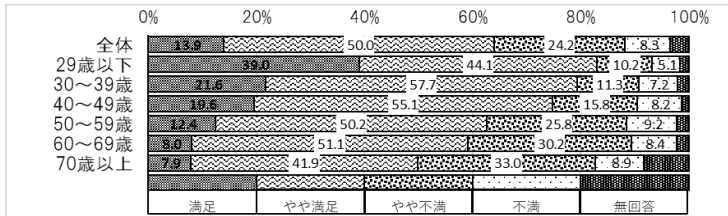
- ・多言語だけでなく「やさしい日本語」での対応を広めるとともに、外国人住民の生活をサポートする機能を充実させるなど、必要な情報を提供できる体制を構築します。
- ・外国人住民に自治会への加入を促し、地域コミュニティの一員として社会参画できるまちづくりを支援します。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2023(R5)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	多文化交流 多文化共生社会の実現に向け、(仮称)伊賀市多文化共生指針に基づき、伊賀市国際交流協会やNPO等と連携し、多文化理解を深めるための講座やイベント等を実施します。また、多文化共生社会を推進するサポーターを養成し、地域や学校等での多文化交流を促進します。	○多文化共生推進事業 ○多文化共生センター管理運営経費 ・外国人とのコミュニケーション方法や文化などを紹介する多文化共生理解事業を行った。 ・出前講座を市内小学校・地域等で実施した。 ・交流事業を国際交流協会へ委託し実施した。 ・漢字教室や学習支援教室のボランティア養成講座を行った。 ・「やさしい日本語」について、広報やケーブルテレビ等で市民周知するとともに、研修会を実施した。	成果指標	日本人との交流がある外国人の割合					
			成果指標の説明	外国人住民アンケートで「市内に住む日本人とどのような付き合いがありますか」の設問において、「日常生活の話(世間話)をする」「困ったときに助け合っている」「家族同様に親しく付き合っている」と答えた人の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	22.8	56	56.3	59.1		30.0
2	外国人住民への支援 伊賀市多文化共生センターにおいて、多言語での相談や生活支援を行うほか、必要な情報を集約し、発信するなど外国人住民への支援の充実を図ります。また、多文化共生にかかる日本人の相談窓口としての機能を充実させ、人や文化の交流を促進します。	○多文化共生推進事業 ○多文化共生センター管理運営経費 ・伊賀市多文化共生センターなどにおいて、他部局と連携し、一元的相談窓口で相談事業を行った。(多文化共生通訳相談員7人・5言語) ・各種情報をSNSや情報誌などを作成し多言語で発信した。 ・テレビ通訳、AI翻訳サービスで11言語以上対応できる業務を委託した。 ・「伊賀市でくらす外国人のための生活ガイドブック(6言語)」を作成した。	成果指標	伊賀市に住んでよかったと感じている外国人の割合					
			成果指標の説明	外国人住民アンケートで「伊賀市に住んでよかったと感じていますか」の設問において、「とても感じている」または「だいたい感じている」と答えた人の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	79.8	92	82.5	79.8		84.0
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

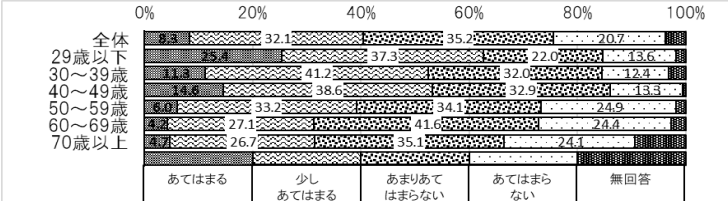
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R5)



参画度(R5)



- 傾向
- ・満足度はやや上昇しており、参画度は下落している。
 - ・29歳以下の満足度が高い。
 - ・50歳以上の参画度が低い。

【CHECK②】

効果検証

【事業の進捗】取り組み状況

【ACTION】事務事業の改善案

効果検証			【事業の進捗】取り組み状況	
効果検証			【ACTION】事務事業の改善案	
1	効果が出ている点	・自治会から地域の外国人への通知等の翻訳や出前講座の依頼があり、地域の住民として受け入れ共生していこうとする行動がみられる。(R5年度翻訳実績: 10地区5言語、17件) ・学校においても、社会見学や多文化理解出前講座などの機会をもち、多文化共生の理解を深めている。	計画通り進めている	
	課題	・今後も、日本人住民と外国人住民が多様な文化を認め合い交流が図れるよう、意識啓発を行うとともに、交流の機会を創出する必要がある。 ・多文化交流のため「やさしい日本語」などを普及・活用し、市民一人ひとりが交流できる地域づくりを進める必要がある。	○新規事業案 ・地域や企業等の実態把握を行う。 ○既存事業案 ・伊賀市版外国人のための生活ガイドブック(5言語＋やさしい日本語)印刷及び配布を行い、地域等で活用できるように啓発を行う。 ・「やさしい日本語」の研修及び普及 ・交流事業の充実	
2	効果が出ている点	・多文化共生通訳相談員の設置及びタブレット端末、映像通訳等を活用することで、相談業務や翻訳業務が円滑になり、より良い支援が可能になっている。 ・日本人住民の相談窓口としても対応を行い、地域での多文化共生を進めることができている。	計画通り進めている	
	課題	・外国人住民が、日本人住民と安心して暮らし・活躍できる地域づくりを進めるため継続した現状把握を行う必要がある。 ・関係機関と連携し、多言語対応の情報発信を充実させる必要がある。 ・多種多様なイベントを行っているが、事業の有効性等を確認する必要がある。	○既存事業案 ・多文化共生センターホームページを更新し、更なる情報発信の充実 ・外国人住民アンケート調査を継続実施し、ニーズ・困りごとの把握 ・多言語相談員・タブレット端末・AI翻訳などを活用するとともに、関係機関及び他部署との連携を図り、窓口対応の充実 ○廃止・縮小事業案 ・イベント等の精査	
3				
4				

伊賀流自治の視点

【主担当部局】

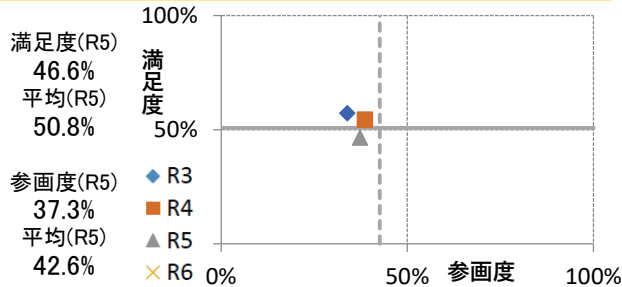
企画振興部

・市民誰もが暮らしの中で文化・芸術に触れることにより豊かな感性と創造力を育むことができるよう、機会の提供と充実に努めます。

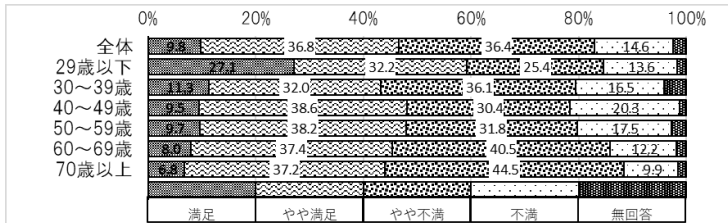
・市民の文化・芸術意識の向上を図り、情報発信や人材育成等に取り組むことで、さまざまな文化・芸術の継承・創造を促し、まちづくりや産業に活かします。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2023(R5)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	文化・芸術振興 文化振興ビジョン及び文化振興条例を踏まえた文化振興プランを策定し、それに沿って文化・芸術振興の具体的な取り組みを進めることで、市民の文化・芸術意識の向上を図ります。文化振興ビジョンで、伊賀市の文化振興の中心的存在と位置付けられた(公財)伊賀市文化都市協会などと連携し、市民が芸術に触れる機会を提供します。市民、芸術団体の活動支援を行い、文化・芸術活動の担い手を育成します。	○文化振興経費 ・伊賀市文化振興プランの推進 ・上野城新能の開催 ・こども能楽教室の開催 ・「市展いが」の開催 ・岸宏子記念伊賀文学館の開館・運営 ・「雪解のつどい」など文学振興事業の実施 ・NHK公開番組の実施 ・美術博物館基本構想の検討	成果指標	市民美術展覧会 出品者数、鑑賞者数					
			成果指標の説明	市民が芸術に触れる機会の提供及び活動支援、文化芸術活動の担い手育成への取り組みの効果を測るための指標。 市民美術展覧会の一般応募者と鑑賞に訪れた人数合計					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	1,542	1,233	1,144	1,179		2,000
2	文化施設維持管理 文化・芸術活動の拠点となる伊賀市文化会館などホール施設の適切かつ効果的な管理運営を行い、施設環境の維持向上に努めます。子どもたちが次代の文化の担い手となるよう、優れた文化・芸術に触れ学ぶ機会づくりとして、ホール施設を活用した文化・芸術事業や、アウトリーチ事業を実施します。	○文化施設維持管理経費 ・伊賀市文化会館、あやま文化センター、青山ホール、ミュージアム青山讃頌舎、岸宏子記念伊賀文学館指定管理 ○文化施設改修事業 ・文化会館舞台機構設備取替 ・岸宏子記念伊賀文学館改修工事	成果指標	自主事業の入場者数全体に占める子どもの割合					
			成果指標の説明	伊賀市文化会館、あやま文化センター、青山ホールで開催される自主事業や、そこを拠点としたアウトリーチ事業の参加者数全体に占める子どもの割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	20	23	40	35.2		30
3	芭蕉翁顕彰 芭蕉翁の生誕地として、芭蕉文学と俳句文芸の調査研究、継承、啓発を行うとともに、関係団体や自治体と連携し、俳句の文化的価値を世界へ発信する取り組みを進めます。多くの人に親しまれる顕彰事業や芭蕉翁記念館の運営を行います。また、人づくり・まちづくりにつながる新芭蕉翁記念館の整備に向けた検討を進めます。	○芭蕉翁顕彰経費 ・第77回芭蕉祭の開催 ・俳句ユネスコ無形文化遺産登録に向けた活動 ・芭蕉翁生誕380年記念事業の実施 ○芭蕉翁関連施設維持管理運営経費 ・芭蕉翁記念館、蓑虫庵、史跡芭蕉翁生家、偲翁舎などの維持管理・運営 ・史跡芭蕉翁生家、蓑虫庵指定管理 ○芭蕉翁関連施設改修経費 ・蓑虫庵 芭蕉堂茅葺屋根等保存修繕工事	成果指標	芭蕉祭献詠俳句等応募数					
			成果指標の説明	芭蕉翁顕彰並びに芭蕉文学と俳句文芸の調査研究、継承、啓発、発信する取り組みの効果を測るための指標。 俳句、連句、絵手紙、ポスター原画の応募数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(点)	36,829	38,713	35,785	35,371		40,000
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

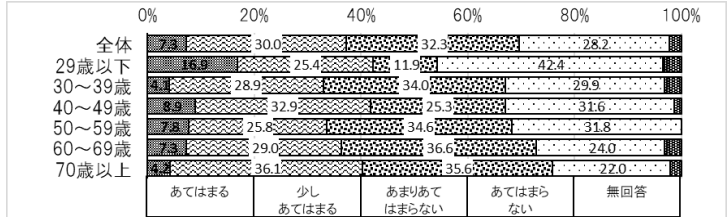
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R5)



参画度(R5)



- 傾向
- ・すべての年齢層で、満足度と比べて参画度が低い。
 - ・29歳以下の満足度が高いが、全体として横ばいか減少傾向にある。
 - ・29歳以下、40歳代、70歳以上の参画度が比較的高い。

【CHECK②】

効果検証			【事業の進捗】取り組み状況
			【ACTION】事務事業の改善案
1	効果が出ている点	・文化振興プランに掲げる意見交換会、関係者ヒアリング、事業カードの収集を実施し、文化振興に係る課題の抽出に繋がった。 ・上野城新能等を開催し、市の伝統文化を継承する取組となった。 ・岸宏子記念伊賀文学館を開館し、指定管理者と協働で事業を行った。 ・美術博物館建設準備委員会を開催し、基本構想の中間案を取りまとめた後、パブリックコメントにより市民の意見を徴することができた。	計画通り進めている ○新規事業案 ・文化振興に関わる人、情報を集約するプラットフォームを検討する。 ・芭蕉翁記念館の機能を含む美術博物館建設に向けて、ワークショップを開催するなど市民の想いを収集しながら、美術博物館建設準備委員会を開催し、基本構想を踏まえた、より具体的な美術博物館基本計画を策定する。 ○既存事業案 ・伊賀市文化振興ビジョンに基づき、伊賀市文化都市協会等と連携しながら、伊賀市文化振興プランの進捗管理を行う。
	課題	・文化振興審議会と庁内推進会議との情報共有と連携が必要。 ・文化芸術活動を行う人の高齢化や後継者不足等による、事業参加者の減少と関係団体の脆弱化が課題。 ・市内で身近に歴史文化や芸術に触れ、学べる施設、さらに歴史文化資料等を適切に保管・活用するための施設がない。 ・美術博物館整備における都市計画区域の変更や、財源の検討、運営における学芸員の確保などが課題。	
2	効果が出ている点	・伊賀市文化会館の長寿命化に向け、計画的に消防設備工事や舞台機構改修工事を行った。 ・岸宏子記念伊賀文学館の改修工事が令和5年8月末に完工し、12月2日に開館した。 ・(公財)伊賀市文化都市協会による、市内小中学校や社会福祉施設へのアウトリーチ事業により、子どもたちや文化ホールを訪れるのが困難な人が文化芸術にふれる機会が増えている。	やや遅れている ○既存事業案 ・ホール施設等を活用し、伊賀市文化都市協会と連携しながら、市民が文化に触れる機会づくりを行う。 ・伊賀市文化会館及び青山ホールの改修を計画的に進めていく。 ・あやま文化センターの今後のあり方も含め、周辺公共施設関係課等と検討を行う。
	課題	・あやま文化センターの今後の活用について検討が必要。 ・伊賀市ミュージアム青山讃頌舎、岸宏子記念伊賀文学館における来場者の確保。 ・文化会館及び青山ホールの老朽化が進んでおり、改修を進める必要があるが、財源確保(補助メニューが少ない、企業版ふるさと納税やクラウドファンディング)の検討が必要。	
3	効果が出ている点	・芭蕉翁生誕380年記念事業実行委員会及び下部組織である実行部会を設置し、事業を企画し実施している。 ・芭蕉祭や芭蕉翁献詠俳句の募集により、市民へ芭蕉翁生誕地としての俳句づくりへの意識付けがされ、芭蕉翁顕彰につながっている。 ・俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会や奥の細道サミットなどにより、関係団体や自治体と連携し、俳句の文化的価値を広く発信している。	計画通り進めている ○既存事業案 ・芭蕉翁生誕380年記念事業の実施と、効果的な情報発信を行う。 ・蓑虫庵の中門、東門保存改修工事を行う。 ・芭蕉翁記念館、史跡芭蕉翁生家、蓑虫庵の修繕を適宜行い、維持管理をする。 ・重要文化財である「更科紀行」等、貴重資料の保存方法について検討を行う。 ・関係団体が主催する事業の周知協力や、学芸員による出前講座などにより、俳句人口を増やす取組を継続して行う。
	課題	・各地で俳句コンクールが多く開催されていることや、芭蕉翁顕詠俳句募集の効果的な情報発信が不足していることなどから、応募数が減少している。 ・芭蕉翁記念館は老朽化が進み、展示室も狭いため、俳句・俳文学の周知啓発、先人顕彰に繋がりにくい。 ・市民をはじめ多くの人に俳句に親しんでもらう機会を創出するため、芭蕉翁顕彰会など関係団体が実施する事業との連携が必要。	
4			

伊賀流自治の視点

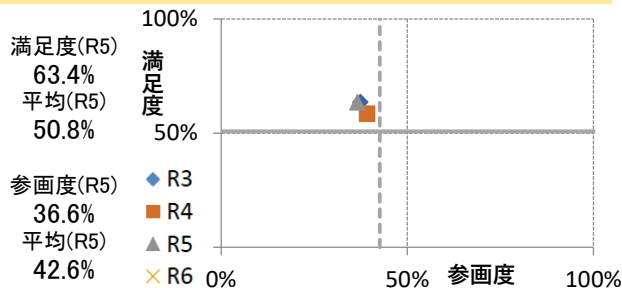
【主担当部局】

教育委員会

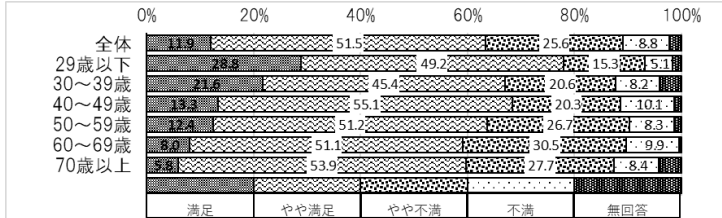
- ・貴重な歴史資料や文化財を調査・保存・管理し、それらに関する情報を発信・提供するとともに活用に努めます。
- ・豊富な文化遺産をまちづくりに活用することにより、文化財への理解や保護する心を育て、市全体の魅力発信につなげます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2023(R5)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	文化財保護 市内に所在する未指定・未登録の文化財の調査・記録を促進して保存すべきものを指定・登録するとともに、文化財の保存・活用についての総合的な計画策定に取り組みます。 建造物などの有形文化財は、管理者と協議のもと保存・修理し、防犯・防災施設の整備に努めます。また、祭礼などの民俗文化財は、後継者の育成と道具の修理等を支援します。さらに、史跡や名勝、天然記念物は、文化財の価値をより高めるために、環境整備や適切な維持管理、周辺環境の保全に努めます。開発に伴い失われる埋蔵文化財は、発掘調査を実施し記録保存を図ります。	○文化財保存経費 ・国史跡の伊賀国庁跡・伊賀国分寺跡・御墓山古墳・上野城跡の環境整備 ・特別天然記念物オオサンショウウオの保護活動 ・文化財保護の記録「文化財年報」の発行 ○文化財保存事業 ・重文町井家・猪田神社本殿・大村神社宝殿等の防災設備保守点検事業 ・重無民上野天神祭の楼車(幕)や勝手神社神事踊の用具、県指定木造多聞天立像等の保存修理事業 ○文化財保存活用地域計画策定事業 ・文化財保存活用地域計画の作成 ・個別文化財のパンフレットの作成	成果指標	指定及び登録文化財数(累計)					
			成果指標の説明	市内のさまざまな文化財を調査・研究した結果、保存・継承すべきものとして取り組んだ成果を測るための指標					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(件)	500	502	503	505		520
2	文化財の活用 身近な歴史や文化財の成り立ちや価値を伝えるため展示施設の整備に努めるとともに、講座の開催やパンフレットの作成などを通じて普及啓発活動を行います。また、旧崇広堂などの文化財施設を積極的に活用し、地域の歴史や文化財の魅力を発信するとともに、史跡の価値や魅力をより高めるため、史跡整備の推進や維持管理に努めます。	○文化財等保存管理施設維持管理経費 ・大山田郷土資料館においてボランティア団体による特別展及びワークショップの開催。 ・阿波地区にてオオサンショウウオ観察会等の実施 ○文化財施設維持管理経費 ・指定管理施設(旧崇広堂・入交家住宅・旧小田小学校本館・城之越遺跡)の活用、維持管理 ○国史跡伊賀国庁跡保存整備事業 ・保存整備事業、指導委員会の開催、講演会・展示会の開催	成果指標	文化財施設 入館者数					
			成果指標の説明	旧崇広堂・旧小田小学校本館・入交家住宅・城之越遺跡・大山田郷土資料館の入館・入園者数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	17,108	16,787	17,486	14,830		18,000
3	歴史まちづくり 上野城下町、観音寺と大和街道鳥ヶ原宿、大村神社と初瀬街道阿保宿の3つの重点区域において、歴史的風致形成建造物の指定や修景助成、まち巡り拠点の整備や古民家再生事業などを推進することにより、歴史的な風致の維持向上を図ります。	○歴史的風致維持向上計画進捗管理事業 ・庁内会議・協議会の開催、関連事業の進捗管理 ・重点区域の一つである阿保地区と協議し、案内看板を設置し、パンフレットを作成 ・登録有形文化財の登録に向けて、ヘリテージマネージャーによる歴史的建造物の調査を実施	成果指標	歴史的風致維持向上計画事業 進捗状況					
			成果指標の説明	歴史的風致維持向上計画に掲載された個別事業の完了した割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	21	21	46	44		63
4	歴史資料の整理・保存・管理 『伊賀市史』編さん資料や、失われゆく歴史資料から地域の歴史と魅力を継承し、将来にわたって活用できるようにするため、資料の収集や整理作業を行うとともに、文書館の設置により公開・保存・管理体制の整備に取り組みます。	○歴史資料保存管理経費 ・寄贈資料の受贈、パンフレット、目録の作成、寄贈資料等を公開するため展示を実施	成果指標	歴史資料 閲覧件数					
			成果指標の説明	歴史資料を収集・整理及び啓発・発信した結果を測る指標					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(件)	40	66	84	85		50

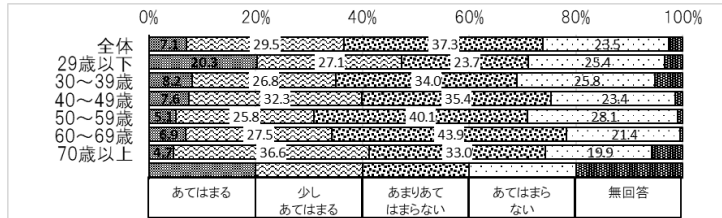
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R5)



参画度(R5)



傾向
・満足度は、過去3カ年平均すると6割を超えるが、参画度は、3年連続4割を下回り、平均よりも低い数値となっている。市民が参画する、保護や活用の取り組みを工夫する必要がある。

【CHECK②】

効果検証		【事業の進捗】取り組み状況
効果検証		【ACTION】事務事業の改善案
1	効果が出ている点	計画通り進めている ○新規事業案 県指定入交家住宅屋根修理事業(県補助)、新大仏寺重文収蔵庫修理事業、重文観音寺本堂の防災設備保守点検事業(国補助) ○既存事業案 重文町井家住宅保存修理事業 重文町井家住宅・猪田神社本殿・大村神社宝殿・高倉神社本殿の防災設備保守点検事業 重無民上野天神祭ダンジリ行事楼車幕修理事業、県指定観音寺多聞天保存修理事業 ○廃止・縮小事業案(事業完了) 重文運徳寺日光月光菩薩立像防犯設備整備事業、県指定西蓮寺真盛自筆消息保存修理事業、県指定猪田神社防災施設整備事業
	課題	
2	効果が出ている点	計画通り進めている ○既存事業案 フェイスブックの積極的活用と時代や分野別のパンフレットを通じて歴史や文化財の魅力を発信する機会を増やす。
	課題	
3	効果が出ている点	計画通り進めている ○新規事業案 第10回「中部歴まちサミット」の開催 ○既存事業案 ヘリテージマネージャー活動支援事業 宿場・街道案内看板等設置整備事業
	課題	
4	効果が出ている点	計画通り進めている ○既存事業案 歴史資料を紙媒体だけでなく、デジタルアーカイブへの掲載を増やし、活用をさらに進める。
	課題	

伊賀流自治の視点

【主担当部局】

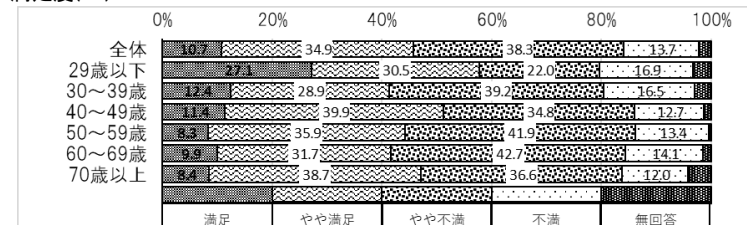
企画振興部

・誰もが時間や場所を問わず、スポーツに親しむ機会の提供に努めるとともに、安心してスポーツを行うことができる環境づくりに努めます。

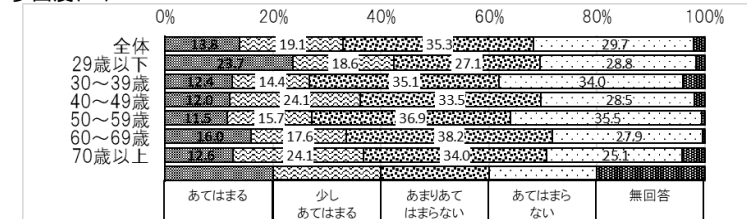
【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2023(R5)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	スポーツ振興 市民一人ひとりが気軽にスポーツを楽しむ機会を創出するため、スポーツ推進委員活動やスポーツ組織・団体の活動を支援します。 スポーツ教室やスポーツイベントの開催を通じ、スポーツに親しみ、その魅力を身近に感じ、それぞれの立場でスポーツ活動に参画する機会の創出につなげます。	○スポーツ活動振興事業 ・スポーツ協会やスポーツ少年団等への活動支援 ・3年ぶりに次のスポーツイベントをコロナ禍前の水準に戻し開催 ・伊賀市スポーツフェスティバル 10/15、11/12 11種目986人が参加 ・伊賀上野シティマラソン 11/26 4部門に2,140人がエントリー ・伊賀地区駅伝競走大会 R6. 1/28に3部門に54チームがエントリー ○スポーツ推進員派遣事業 地域スポーツの裾野を広げるため、地域で開催されるレクリエーション行事等にスポーツ推進員を指導者として派遣(18地域・団体)	成果指標	スポーツ活動実施率					
			成果指標の説明	まちづくりアンケートの中で、週1回以上のスポーツを実施している割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	28.8	53.6	12.2	13.8		43.2
2	スポーツ施設再編・維持管理 スポーツ施設再編・整備計画に基づき、全市的な視点で類似施設の統廃合や機能分担を行い、安全で利用しやすいスポーツ施設の整備、修繕、改修を計画的に行います。 施設をいつでも気軽に利用できるよう、インターネットによる空き情報の検索・利用予約サービスの導入について検討します。	○体育施設整備事業 ・スポーツ施設の長寿命化改修等 阿山B&Gプール大規模改修工事 博要体育館解体設計・解体工事 いがまちグラウンド照明機器漏電改修工事 島ヶ原運動広場防球ネット改修工事 上野運動公園武道館防水改修工事 アーバンスポーツ実証実験セクション購入 ○体育施設維持管理事業 ・指定管理者委託料 ・施設維持管理修繕 ○インターネットによる予約サービスの導入 スポーツ施設での導入に先駆け、学校開放事業において予約と鍵ボックスが一体となったシステム稼働を開始。 ○スポーツ施設における広告事業 スポーツ施設整備の財源確保を目的に広告募集制度を作成した。	成果指標	スポーツ施設 稼働率					
			成果指標の説明	各スポーツ施設(プール、艇庫は除く。)の稼働率(利用のあった日/365日)の合計を施設数で除した数(平均稼働率)					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	45.96	41.22	49.50	49.74		55.15
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

まちづくりアンケート調査結果

満足度(R5)

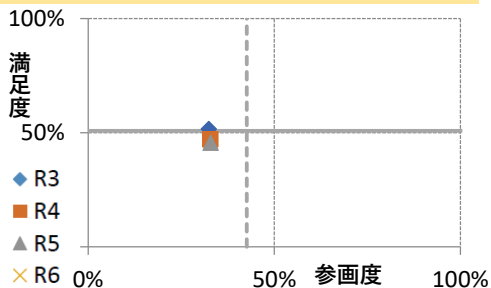


参画度(R5)



満足度(R5)
45.6%
平均(R5)
50.8%

参画度(R5)
32.9%
平均(R5)
42.6%



傾向

- ・満足度は、R4より全体で微減。29歳未満の若年層と70歳以上が他の区分より高くなっているが、R4よりは下がっている。
- ・参画度は、R4とほぼ変化なし。30歳代と50歳代が他の区分より低くなっている。

【CHECK②】

効果検証		【事業の進捗】取り組み状況
【ACTION】事務事業の改善案		
1	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	○新規事業案 ・市民健康づくり体力測定会を開催する。(令和6年6月、7月) ・伊賀市スポーツ少年団20周年記念事業への支援 ○既存事業案 ・各種イベントについて、健康づくりに加え、交流機会や観光など新しい価値観も付加し、交流人口を増やす工夫を凝らす。 ・広報いが連載コラム「スポーツのチカラ」、SNSなどでの発信を行う。 ・スポーツ団体の主体的な運営についての検討を行う。 ・子ども、高齢者、障害のある人も含め、全ての市民へのスポーツ機会の充実と環境づくりに努める。 ・スポーツ推進委員を地域や企業へ派遣し、誰もが楽しめるレクリエーションスポーツ等の普及に努める。 ・総合型地域スポーツクラブなどスポーツ団体との連携を図り、学校の運動部活動の地域移行に協力する。
2	効果が出ている点	やや遅れている
	課題	○新規事業案 ・学校開放事業で運用を開始したシステムの稼働状況を検証し、今後、DX計画に基づく施設予約システムの検討を行う。 ・実証実験中のアーバンスポーツ会場の実施状況を検証しつつ、施設整備に向けた検討を行う。 ・阿山B&G海洋センタープールの大規模改修完成披露式典を令和6年7月に開催する。 ○既存事業案 ・各施設の長寿命化改修工事や、維持管理工事を継続して実施する。 ・利用状況の低い施設の閉鎖(大山田東体育館・グラウンド)について、地元協議や跡地の利活用について検討を行う。 ・類似施設(緑ヶ丘テニスコート、小田テニスコート)の集約化などについての検討を行う。 ・令和7年度からの学校体育施設開放に係る使用料について、関係部局と検討を行う。
3	効果が出ている点	
	課題	

伊賀流自治の視点

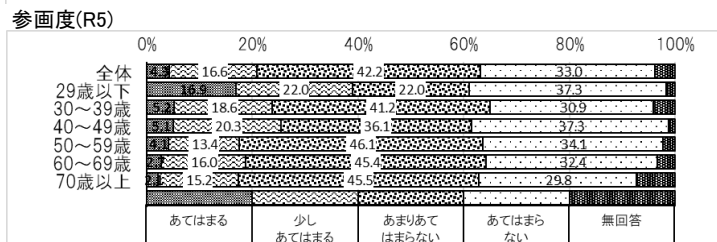
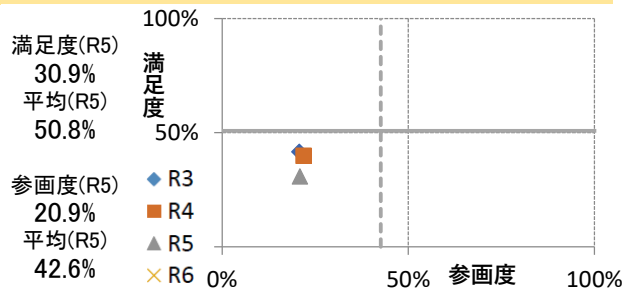
【主担当部局】

企画振興部

- ・学校等と連携し、若者のシビックプライドを醸成します。
- ・あらゆる主体がまちづくりに積極的に参画できる機会を創出します。
- ・全国に向けて伊賀市の魅力や住みやすさをPRするとともに移住希望者へのきめ細かいサポートを行います。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2023(R5)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	魅力発信 大学と連携し「忍者」に関する市民講座を開催することで、市民のシビックプライドの醸成と市外における認知度向上とファン獲得に努めます。また、ふるさと納税などを通じて、官民が一体となって伊賀市の特産品や地域資源をPRし、販路拡大や関係人口の創出に取り組みます。	○シティプロモーション推進事業 ・ふるさと納税の推進(個人版・企業版) ・関係人口の創出・拡大	成果指標	ふるさと納税人数					
			成果指標の説明	伊賀市にふるさと納税をした年間延べ人数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	6,791	18,348	16,039	15,161		12,000
2	地域人材育成 小・中学校における郷土教育、市内高校と連携したキャリア教育により、地域を知り、地域との関わりを持ち続け、地域に貢献する人材を育成し、将来的なUターンや定住につなげます。また、若者がまちづくりに参画しやすい環境を整備し、教育機関や企業等と連携し、次代の主役となる人材の育成と地域の活性化を図ります。	○地方創生推進事業 ・若者会議の推進 ・IGABITO育成(高校連携) ・三重大学伊賀連携フィールド事業の推進及び改善	成果指標	20～30代の年間転入超過数					
			成果指標の説明	住民基本台帳における4月1日から翌年3月31日までの20歳から39歳までの転入者数と転出者数の差					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	▲9	▲456	▲63	▲88		50
3	移住・交流 移住コンシェルジュによるワンストップ相談窓口のほか、東京、大阪等での移住相談会や移住プロモーションを実施するとともに、移住後も移住者同士の交流や地域との連携等、さまざまなつながりや活動のフォローを行い、伊賀市への移住促進に取り組みます。地域おこし協力隊を配置し、地域課題の解決や地域活性化の取り組みのサポートを行います。また、地域に根ざした活動を行うなかで将来的な隊員の定住をめざします。	○移住・交流推進事業 ・移住定住推進 ・おためし移住施設登録制度の推進 ・おためし移住施設利用促進助成金の推進 ・移住コンシェルジュによるワンストップ相談 ・若者定住のための奨学金等返還支援事業の推進 ・SNS(Instagram)を活用した情報発信 ・体験型移住セミナーの開催 ・地域おこし協力隊確保に向けた推進	成果指標	相談を通じた移住者数					
			成果指標の説明	移住コンシェルジュによる相談を通じた移住者の人数。計画期間の累計人数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(人)	88	422	510	608		362

まちづくりアンケート調査結果



・満足度、参画度ともに低い傾向となっている。
・満足度については、29歳以下が他の世代と比較して高くなっているが全体では昨年度と比較して9ポイント下がっている。
・参画度については、市外向けの事業が多くなっていることから、低くなる傾向になっている。

【CHECK②】

効果検証		【事業の進捗】取り組み状況
【ACTION】事務事業の改善案		
1	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	○新規事業案 ・現地決済型ふるさと納税サービスを導入する。 ・SNSの友だち登録機能を活用し、伊賀市ファン(関係人口)、リピーターを創出する。 ○既存事業案 ・引き続き、移住相談会や観光イベント等と連携したPR活動を行う。 ・返礼品協力事業者を対象としたワークショップを開催し、返礼品紹介コーナーの作成や返礼品画像のブラッシュアップなど、寄附者に選ばれるページづくりを行う。 ・検索連動型広告などを活用し、寄附受付サイト利用者へのアプローチを行う。
2	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	○新規事業案 ・地域創生プロフェッショナル人材育成事業で育成した人材の活用(庁内複業制度)、及びデータ分析や調査分析、政策提言、人材育成(伊賀創生研究会)等を専門的に行う組織(自治体シンクタンク)の設置に関する研究と提言を行う。 ○既存事業案 ・伊賀市若者会議第4期をスタートさせる。 ・引き続き市内高校との連携に取り組む。 ・三重大大学の体制が変更されることから、新たな取り組み等について継続的に協議をすすめる。
3	効果が出ている点	計画通り進めている
	課題	○既存事業案 ・おためし移住支援制度の内容を見直し、利用者の増加を図る。 ・奨学金支援制度を広く周知し、利用者(申請者)の増加を図るとともに、若者世代の移住に繋げる。 ・移住セミナーでは、移住希望者が望む新規事業の企画を行う。 ・SNSを活用したPRに加え、本市の魅力を発見するイベントを実施する。 ・地域おこし協力隊の確保に向け、受入団体への説明会を行う。